



平成 28 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 三櫻工業株式会社
 代表者名 取締役社長 篠原 利幸
 (コード番号 6584)
 問合せ先責任者 会計決算部長 長谷川 貴之
 (TEL 03-5793-8417)

平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 期間の連結業績予想値と実績値との差異
 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 13 日に公表した平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日) の連結業績予想数値と実績において差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 3 月期の通期連結業績予想の修正を実施することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 期間連結業績予想数値と実績値の差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 66,000	百万円 2,600	百万円 2,500	百万円 1,100	円 銭 30.22
今回実績値 (B)	65,915	3,776	2,200	728	20.01
増減額 (B - A)	△85	1,176	△300	△372	—
増減率 (%)	△0.1	45.2	△12.0	△33.8	—
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	63,742	2,946	2,438	1,076	29.56

2. 平成 29 年 3 月期通期業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 132,000	百万円 5,100	百万円 5,000	百万円 2,000	円 銭 54.95
今回修正予想 (B)	132,000	5,100	3,400	900	24.73
増減額 (B - A)	—	—	△1,600	△1,100	—
増減率 (%)	—	—	△32.0	△55.0	—
(参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	133,968	6,441	4,389	△724	△19.90

(注 1) 在外連結子会社の収益及び費用は、従来、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、平成 29 年 3 月期第 1 四半期より期中平均相場により換算する方法に変更しております。当会計方針の変更は遡及適用され、前期第 2 四半期実績及び前期実績については遡及適用後の数値となっております。

(注 2) 業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

3. 差異発生及び連結業績予想修正の主な理由

(1) 平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）期間連結業績予想数値と実績値の差異

①営業利益

ドイツにおいて樹脂製品を生産する子会社である Geiger Automotive GmbH が新規立上り品の生産混乱により人件費、外注費等がかさみ費用増となりましたが、メキシコ子会社及びアジア子会社各社の業績が好調に推移したこと等により、営業利益は前回予想値を上回りました。

②経常利益

円高の進行等により、平成 29 年 3 月期第 1 四半期連結累計期間において、当社及び当社グループが保有する外貨建債権及び債務から 1,155 百万円の為替差損が発生していましたが、第 2 四半期までの累計で為替差損は 1,512 百万円となりました。主として当該影響により経常利益は前回予想値を下回りました。

③親会社株主に帰属する当期純利益

平成 29 年 3 月期第 1 四半期連結累計期間において当社国内事業所の固定資産に関して 487 百万円を減損損失として計上しております。経常利益の減益影響及び当該減損損失の影響により親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想値を下回りました。

(2) 平成 29 年 3 月期通期業績予想数値の修正

①営業利益

ドイツ子会社 Geiger Automotive GmbH の生産混乱は収束に向かいつつあるものの、増加した人件費、外注費等が生産混乱発生前の水準に戻るにはなお時間を要する見通しであり、当該影響により上期の営業利益増が相殺される見込みであります。

また、当期の為替レートは当初 1 ドル 108 円、1 ユーロ 122 円を想定しておりましたが、最近の為替相場の動向を踏まえて 1 ドル 107 円、1 ユーロ 119 円に変更しており、当該影響も上期の営業利益増を相殺する一因となっております（下期のみの想定レートは 1 ドル 103 円、1 ユーロ 114 円）。

以上により、通期の営業利益予想は据え置きとしております。

②経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

主として第 2 四半期（累計）期間の減益影響により、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想値を下回る見込みとなりました。

なお、配当につきましては、直近に公表している配当予想からの変更はありません。

以 上